

パネル展示団体一覧 (2008年3月11日現在)

歩かんね大宰府実行委員会

漆刷毛工房ひろしげ

元興寺文化財研究所

京都国立博物館 文化財保存修理所 修理者協議会

京都造形芸術大学芸術学部

国宝修理装飾師連盟

財団法人 祇園祭山鉾連合会

財団法人 黒主山保存会

財団法人 古都大宰府保存協会

財団法人 日本ナショナルトラスト

社団法人 全日本郷土芸能協会

社団法人 奈良まちづくりセンター

全国山・鉾・屋台保存連合会

太子山保存会

特定非営利活動法人 NPO文化財を守る会

特定非営利活動法人 京町家再生研究会

特定非営利活動法人 大文字保存会

特定非営利活動法人 全国町並み保存連盟

特定非営利活動法人 文化財保存活用支援センター

特定非営利活動法人 文化財夢工房

特定非営利活動法人 ミュージアムIPMサポートセンター

奈良教育大学

新潟県立歴史博物館

日本の風の会

文化財修復大学院生インターンシップ協議会

社会全体で文化財を継承していくための方策に関する研究協議会

文化財 サポーターフォーラム

～日本中みんなで文化財を守りたい～

東京 平成20年 **3月16日** (日) 10:30 ~17:30

東京国際交流館 プラザ平成

(東京都江東区青海2-79)

奈良 平成20年 **3月23日** (日) 10:30 ~17:30

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館 講堂

(奈良市二条町2丁目9-1)

主催 文化庁

文化庁では、文化財の保存と活用に対する支援活動等に、社会全体の積極的な参加を求めていくためには、全国各地の保存団体、市民団体やNPO法人等の活動を調査し、その情報を提供するとともに、それらの団体と行政及び団体等相互の連携・協力を促すことが重要と考えています。

このため、平成19年度から「文化財サポーター制度(仮称)の構築に関する調査研究」を実施し、それらの団体等の活動状況に関する調査を行っていますが、このたび、平成19年度の調査研究の進捗状況等を踏まえて、市民団体等が活動しやすい環境の整備や人々が積極的にその活動に参加する機運を醸成するために必要な方策や枠組について研究・協議を行うことを目的として、この研究協議会を開催します。

問い合わせ先

(株)クバプロ内

文化財サポーターフォーラム事務局

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F

TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837

E-mail: jimukyoku@npo-bunkazai.org

URL: www.npo-bunkazai.org



平成20年3月16日(日)

PROGRAM

東京国際交流館プラザ平成

13:00 開会

【基調講演】

13:10~14:00 「文化財と社会」 青柳 正規 国立西洋美術館長

【事例報告】

14:00~14:20 NPO法人全国町並み保存連盟
14:20~14:40 (社)全日本郷土芸能協会
14:40~15:00 (財)日本ナショナルトラスト
15:00~15:20 全国山・鉾・屋台保存連合会

15:20~15:40 休憩

15:40~16:00 九州国立博物館ボランティア
16:00~16:20 新潟県立博物館

【パネルディスカッション】

16:20~17:20 コーディネーター 三輪 嘉六 九州国立博物館長
パネリスト 内田 俊秀 京都造形芸術大学教授
友田 千恵 NPO法人NPO文化財を守る会理事
泉 清吉 選定保存技術「漆刷毛」保持者
有松 育子 文化庁文化財部伝統文化課長

17:20~17:30 まとめ

基調講演

文化財と社会

青柳 正規 (あおやぎ まさのり) 国立西洋美術館長



1967年東京大学文学部美術史学科卒業、同大学大学院人文科学研究科修士課程修了。
91年東京大学文学部教授、96年同大学人文社会系研究科研究科長・文学部長、97年同大学大学院人文社会系研究科教授、97年同大学副学長を経て、2005年より現職。
全国美術館会議会長 財団法人日本博物館協会理事。
専門はギリシア・ローマ考古学・美術史、特にポンペイ壁画。現在は文化遺産の保存にも興味をもつ。
84年Premio Porto Empedocle (ポルト・エンペドクレ賞、イタリア)、91年浜田青陵賞、93年毎日出版文化賞、02年Onorificenza di Ufficiale dell'Ordine al Merito della Repubblica Italiana (イタリア共和国功績正騎士勲章)、06年紫綬褒章。
著書に、『古代都市ローマ』(中央公論美術出版、1990)、『皇帝たちの都ローマ』(中公新書、1992)、『トルマルキオの饗宴』(中公新書、1997)がある。

パネルディスカッション

●コーディネーター



三輪 嘉六 (みわ かるく) 九州国立博物館長

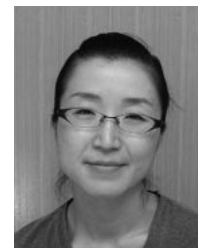
日本大学史学科卒業。奈良国立文化財研究所研究員、文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同庁文化財鑑査官、日本大学教授を経て、1998年より九州国立博物館設立準備室室長、2005年より現職。
文化審議会文化財分科会専門委員、独立行政法人評価委員会委員(文化分科会)をはじめ、各地で文化財の保存・活用についての各種委員を務める。99年から文化財保存修復学会会長に就任。
専門は考古学、博物館学、文化財学。
著書に『日本馬具大観I~IV巻』(編著、吉川弘文館)、「家形はにわ」(『日本の美術』至文堂)、「美術工芸品をまもる修理と保存科学」(『文化財を探る科学の眼5』国土社)、「Horses in Ancient Times」(『Horses and Humanity in Japan』The Japan Association for International Horse Racing)、「文化遺産危機管理の基本課題」(『1999台湾集々大地震-古蹟文物震災修復技術諮詢服務報告書-』台湾国立文化資産保存研究中心)など多数。

●パネリスト



内田 俊秀 (うちだ としひで) 京都造形芸術大学芸術学部教授

1971年明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業、76年「文化財保存修復国際センター」(在ローマ、ICCROM)科学理論課程修了、78年国立ローマ中央修復研究所修了(日伊政府交換留学生として)。
79年(財)元興寺文化財研究所・保存科学研究室研究員(平成2年7月迄)、90年京都芸術短期大学助教授を経て、現在にいたる。
専門は文化財保存、特に青銅製品。現在は文化財防災に興味をもつ。
著書に、『私たちの文化財を救え』(クバプロ、2007、共著)、「銅産業」、『日本産業技術史事典』(思文閣出版、2007、共著)がある。



友田 千恵 (ともだ ちえ) 特定非営利活動法人NPO文化財を守る会理事長

2000年横浜国立大学教育学部総合芸術課程卒業。
00年株式会社墨仁堂入社、装演の修理に従事。04年任意団体文化財を守る会を立ち上げる。06年に特定非営利活動法人として認可を受け、理事長となり現在にいたる。
株式会社墨仁堂取締役。
専門は装演修理。絵画、書跡一般。
著書に、「日本の美術 書跡・典籍、古文書の修理 no.480」池田寿、文化財の災害対策とNPO文化財を守る会の活動、p97-98がある。



泉 清吉 (いずみ せいきち)

1950年生まれ。
72年電気通信大学電子工学科卒業。
72年日本電気株式会社映像技術部入社、73年退社。父、八世 泉清吉に師事。
75年独立、有限会社広重刷毛店設立。
83年父没後、九世 泉清吉を襲名。91年東京芸術大学非常勤講師。08年広島市立大学非常勤講師。
95年ポーラ伝統文化奨励賞受賞、98年長野オリンピック漆塗りメダルに刷毛使用される。98年選定保存技術保持者として認定。
工房での製作の傍ら、漆刷毛を理解してもらうために全国の美術大学、漆芸漆芸研修所、博物館などで製作実演をしている。



有松 育子 (ありまつ いくこ) 文化庁文化財部伝統文化課長

1982年早稲田大学法学部卒業。
82年文部省入省、男女共同参画学習課長、調査企画課長、内閣府参事官(青少年育成担当)などを経て、2007年4月より現職。



平成20年3月23日(日)

PROGRAM

奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂

13:00 開会

【基調講演】

13:10~14:00 「文化財と教育」長友 恒人 奈良教育大学副学長

【事例報告】

14:00~14:20 NPO法人全国町並み保存連盟
14:20~14:40 (社)全日本郷土芸能協会
14:40~15:00 (財)日本ナショナルトラスト
15:00~15:20 全国山・鈴・屋台保存連合会

15:20~15:40 休憩

15:40~16:00 NPO法人平城宮跡サポートネットワーク
16:00~16:20 元興寺文化財研究所

【パネルディスカッション】

16:20~17:20 コーディネーター 森田 稔 京都国立博物館学芸課長
パネリスト 奥村 弘 神戸大学大学院教授
本田 光子 九州国立博物館博物館科学課長
山本 清一 選定保存技術「本瓦葺」保持者
有松 育子 文化庁文化財部伝統文化課長

17:20~17:30 まとめ

基調講演

文化財と教育

長友 恒人 (ながとも つねと) 奈良教育大学教授教育学部・副学長 (研究担当)



1968年京都大学工学部原子核工学科卒業、70年同大学大学院工学研究科原子核工学専攻修士課程修了、73年同大学大学院工学研究科原子核工学専攻博士課程単位修得退学。
73年奈良教育大学助手教育学部、75年同大学助教授教育学部を経て、91年より現職。
奈良教育大学学術情報研究センター長。
専門は古文化財科学・年代測定学、社会的活動は各地の遺跡の年代測定に関する調査指導、講習、講演など。
著書に、「同一テフラのTL年代とOSL年代の比較」長友恒人・下岡順直・西村誠治、奈良教育大学紀要、第54巻第2号、pp.1-9、2005。「熱ルミネッセンス法による鏡範の真贋判定」長友恒人 鏡範研究2-草葉文鏡範の
日中共同研究報告-74-78、2005。「Infrared stimulated luminescence in quartz」, Koichi Inoue, Tsuneto Nagatomo and Motoji Ikeya, Radiation Measurements 39 pp.191-196、2005がある。

パネルディスカッション

●コーディネーター

森田 稔 (もりた みのる) 京都国立博物館学芸課長



1978年広島大学文学部史学科考古学専攻卒業、80年名古屋大学大学院文学研究科考古学専門博士課程(前期)修了。
神戸市教育委員会文化財課学芸員、神戸市立博物館学芸員、文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官・文化財管理指導官を経て、2004年から現職。
専門は考古学、特に窯業史、金工史。文化財学。
著書に『考古資料集成第6巻 弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品』(共編著、小学館、2003)、「縄文・弥生・古墳」(『アジア陶芸史』、昭和堂、2001)、「つたえるー災害を越えてー阪神・淡路大震災と文化財ー」(『よみがえる文化財 芸術と科学の接点』、文化財保存修復学会編、クバプロ、1995)がある。

●パネリスト

奥村 弘 (おくむら ひろし) 神戸大学地域連携推進室室長



1983年神戸大学文学部卒業、85年同大学大学院文学研究科修士課程(史学専攻)修了、86年同大学大学院文学研究科博士課程(社会文化専攻)退学。
86年京都大学人文科学研究所助手(日本社会)、91年神戸大学文学部助教授、95年同大学大学院文学研究科博士課程担当、2005年同大学地域連携推進室副室長、06年同大学人文学研究科教授を経て、07年より現職。
歴史資料ネットワーク代表委員、姫路市香寺町史編纂委員。
著書に、「震災資料の調査・保存・活用ー災害についての歴史文化の基礎をどうつくるのかー」、『阪神大震災研究5 大震災を語り継ぐ』(神戸大学震災研究会編神戸新聞総合出版センター、pp203-224、2002)、「阪神・淡路大震災後の歴史資料の保全と歴史資料ネットワーク」(兵庫県政資料館『兵庫のしおり』第5号、pp62-87、2003)、「地域社会の成立と展開」(歴史学研究会日本史研究会編『日本史講座』第7巻、近世の解体、東京大学出版会、pp65-97、2005)がある。

本田 光子 (ほんだ みつこ) 九州国立博物館学芸部博物館科学課長



明治大学文学部史学地理学科卒業、東京芸術大学大学院美術研究科保存科学専攻修士課程修了。
九州歴史資料館、福岡市埋蔵文化財センター、別府大学文学部史学科助教授、同大文化財学教授、2003年九州国立博物館(仮称)設立準備室保存修復主幹を経て、05年より現職。
日本学術会議連携会員。
専門は文化財保存学、考古学特に出土赤色顔料。現在は博物館危機管理、市民協同型IPM活動に興味をもつ。
著書に「市民と共に歩むIPM活動ー九州国立博物館の取り組み」、『文化財の虫歯』No.53(文化財虫害研究所、2007)、「九州の地震と文化財の防災」、文化財保存修復学会編『私たちの文化財を救え!!』(クバプロ、2007)「博物館の危機管理ー九州国立博物館のハードとソフト」、『博物館研究』Vol.41、No10、2006「九州国立博物館の役割」、『文化財の保存と修復8』(クバプロ、2006)がある。

山本 清一 (やまもと きよかず) 日本伝統瓦技術保存会会長



1932年奈良県生まれ。
尋常高等小学校卒業後、父親のもとで瓦を葺く職人に。その後、井上新太郎のもとで本瓦葺きの修行をし、26歳で独立。法隆寺金堂、東大寺大仏殿、唐招提寺金堂、松本城、姫路城などの屋根の保存修理や、薬師寺伽藍、平城宮朱雀門などの再建に従事。
山本瓦工業株式会社社長。文化財技術保存連盟副会長。
現在、唐招提寺金堂の鷗尾の復元、平城宮大極殿の再建に取り組む。
1992年文部大臣「地域文化功労者」表彰。94年文部大臣認定「選定保存技術保持者(本瓦葺)」(瓦葺部門初)。
98年労働大臣「現代の名工(卓越技能者)」表彰。2001年黄綬褒章受章(文化財保存修理)。07年旭日双光章受章。
著書に、『めざすは飛鳥の千年瓦』(草思社、2006)がある。

有松 育子 (ありまつ いくこ) 文化庁文化財部伝統文化課長



1982年早稲田大学法学部卒業。
82年文部省入省、男女共同参画学習課長、調査企画課長、内閣府参事官(青少年育成担当)などを経て、2007年4月より現職。

特定非営利活動法人 全国町並み保存連盟

(とくていひえいりかつどうほうじん ぜんこくまちなみほぞんれんめい)

全国町並み保存連盟は、昭和49（1974）年に「今井町を愛する会」（奈良県橿原市）、「妻籠を愛する会」（長野県南木曾町）、「有松まちづくりの会」（愛知県名古屋）という住民組織によって結成された団体で、「町並みはみんなのもの」を合言葉に、活動を続けてきました。平成15（2003）年に特定非営利活動法人の認証を受け、63団体、240人が加盟する団体です。昭和53（1978）年から始まった「全国町並みゼミ」は今年で31回目を数えました。

社団法人 全日本郷土芸能協会

(しゃだんほうじん ぜんにほんきょうとうげいのうきょうかい)

(社) 全日本郷土芸能協会(略称: 全郷芸)は、民俗芸能の保存団体および民俗芸能に関心をもつ方々を会員とした、わが国で唯一の全国組織。全郷芸は、日本各地に伝承されている民俗芸能の振興と育成を図り、その発展に寄与することを目的として設立。昭和48（1973）年6月、任意団体として創立。平成7（1995）年5月に社団法人の認可をうける。

財団法人 日本ナショナルトラスト

(ざいだんほうじん にほんなしよなるとらすと)

財団法人日本ナショナルトラストは、国民的財産である貴重な自然景観やかけがえのない文化財・歴史的環境を保全し、利活用しながら後世に継承していくことを目的に、英国の環境保全団体であるナショナルトラストを範として、1968年12月に設立された公益法人（1984年特定公益増進法人に認定）です。市民参加による保護対象の取得・修復・管理などの保護活動のほか、観光資源の保護のための調査や普及活動を行っています。当財団の活動は国民の方ひとり一人の参加に支えられています。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

全国山・鉾・屋台保存連合会

(ぜんこく・やま・ほこ・やたいほぞんれんごうかい)

代表者：会長・内田全一（秩父）、副会長・深見茂（京都）、川尻又秀（高山）、橘慶一郎（高岡）、専務理事・高橋信一郎（秩父）

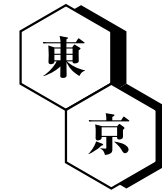
所在地：〒368-8686 秩父市熊木町8-15 秩父市産業観光部文化財課内

創立：昭和54（1979）年10月19日

会員数：正会員29団体（重要有形・無形民俗文化財指定の祭屋台等行事の保護団体）、特別会員31団体（都道府県・市町村）、保存技術会員113名（「祭屋台等製作修理技術者会」会員）

活動：祭屋台等の保護思想の普及啓発に関する調査・研究・教養、祭屋台等の製作・修理技術の向上に関する技術講習会の開催、祭屋台等の製作・修理技術の後継者養成及び用具・原材料の確保等に関する研修会の開催、祭屋台等の製作・修理技術の錬磨や後継者養成事業を対象とした補助の実施。

関連団体：部会・祭屋台等製作修理技術者会（国選定保存技術「祭屋台等製作修理」保持団体）認定年月日：平成14（2002）年7月8日



新潟県立歴史博物館

(にいがたけんりつれきしはくぶつかん)

平成12（2000）年8月、新潟県長岡市に開館。新潟県の歴史・民俗を総合的に研究・紹介する歴史民俗博物館としての性格と、全国的・世界的視点から縄文文化を広く研究・紹介する縄文博物館としての性格をあわせもった博物館。昭和30年代前半の雪国の雁木通りや縄文人の四季の暮しを実物大の復元ジオラマで紹介する展示などが特色。

九州国立博物館ボランティア

(環境部門)

平成17（2005）年10月に開館した九州国立博物館では、300名の市民ボランティアが活動しています。「展示解説・教育普及・館内案内・イベント・環境・学生」の6部門で館のパートナーとして博物館活動をサポートすると同時に自己実現を目指しています。今回は、環境部門28名の3年間の歩みと、その活動を基盤として、博物館や文化財の保存を市民としてサポートするNPO法人ミュージアムIPMサポートセンターを設立した経緯についての報告です。



特定非営利活動法人 平城宮跡サポートネットワーク

(とくていひえいりかつどうほうじん へいじょうきゅうせきさぽーとねっとわーく)

平成13（2001）年設立。会員数は120人。

特別史跡平城宮跡の環境を守り、教育・文化や広報活動を通じて、訪れる人々に最適な空間を提供することを目的としています。

平城宮跡のクリーン活動、歴史講演会や小学生への歴史体験教室、歴史教材の開発、宮跡のガイドや会報の発行、HPの発信、関連する地域のさまざまな環境・文化・スポーツイベントにも参加しています。

財団法人 元興寺文化財研究所

(ざいだんほうじん がんごうじぶんかざいけんきゅうしよ)

南都七大寺の一つであり世界遺産にも登録されている元興寺を母体として1967年に財団法人元興寺佛教民俗資料研究所として設立され、78年にはあらゆる文化財に対応できるように財団法人元興寺文化財研究所として活動している文化庁所管の特定公益増進法人です。奈良県において、全国各地の歴史資料や埋蔵文化財、民俗文化財などの調査・研究・保存・修復を行う総合的な文化財の研究所としての業務を行っています。